

鬼の死のこと伝はらず鬼やらひ

藤田湘子

俳句では本道から一步、否いな、半歩外した視点に立ち詠むことが大切と教わった。一步では外し過ぎで読者が付いて来られなくなり、独り善がりの句とみなされる。

例えば、日本では、大江山の鬼退治や桃太郎の鬼征伐が有名。しかし、鬼の屍骸の鮮明な描写など読んだことが無い。また、韓国にも「トツケビ」と呼ばれる鬼がいるそうだが、豆ごときでは死なない。つまり、毎年、効果もなさそうな「鬼やらい」を年中行事として続け、悪鬼、生き鬼、大悪人を見逃し、正義や天罰などという言葉は夢物語に成り下がってしまったと嘆いている。

なお、湘子先生の頭の中には、前年一月十九日に逝去した佐藤鬼房氏への思いもあつたかもしれない。

2003年（H15作）第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩